

### 13. 防災教育のポイント

防災教育では、いわば災害への備えや発生時の対応まで、広い範囲を伝達することになります。このうち、学校防災ということになれば、方法は講話、防災マップづくり、さまざまな実験などになりますが以下の4つの大きな目標の下で実施されているようです。

1. 自然災害の実態を知ってほしい。何が起きるのか、なぜ起きるのかを考える。
2. 地域の災害リスクを知る方法を身につけてほしい。情報の収集と評価へのアプローチ
3. 災害発生時の自分自身の対応を計画する（いつ、なにを、どうするのか）。
4. これからは、ICTを用いて、多様な情報を収集して適切に判断し、雑多な情報を整理し、モラルに沿って効果的かつ適切に活用して、行動することが求められる。そのための基本的な知識を得てほしい。

実際には、生活環境と自然災害、防げることと防げないことがある、上手な回避と避難、地域の災害リスクを知ることなどについて、フィールドワークも行いながら情報の共有をします。災害に遭遇して知らなかった、経験していない、聴いていないなどがないように自然災害は身近なものとして生活の一部になっていることが望ましく、関心を高めて欲しいものです。

防災教育では、実践へのプロセスを意識して、学年に応じて、地域知を取り入れることを心がけて進めていくのが大切です。

防災意識を高めるために、どのような視点で展開すべかを整理してみました。

防災への意識を高めるために		
知識・理解	自然災害についての基本的な知識を体系的に理解する。	素因と誘因を知る
		現象の確認（実験）
		事例から被害を知る
		過去の災害履歴研究
		防災への取り組み
汎用的技能	安全に安心して暮らすための技能	コミュニケーション
		分析、整理
		情報リテラシー向上
		論理的思考
		問題解決法
		観察・調査法
		提案力・表現法
資料の読解法		

姿勢、志向性	他者と協調し、協働することで、新たな知識や情報を習得する	発信する（伝える）
		傾聴する（丁寧に聴く）
		柔軟性(意見の違いや見方の違いを理解する)
総合的学習経験	災害の視点で、地域を見直して、災害リスクを抽出する。	状況把握をする
		災害時のイメージ化
		災害列島における暮らし（災禍と恵み）
創造的思考、展開	知識や経験、情報を基にして、災害時の行動をシミュレーションする。そこから課題を見つけて解決する方法を構想する。（多様な人々との付き合いの上でも必要な基礎的なものとして、特に災害時の共助のところでは期待されている資質）	